

# 野々浜学区まちづくり計画

～ふれあい・支え合う・安全なまち野々浜～



野々浜学区まちづくり委員会

# 目 次

ごあいさつ	P 2
1 学区概況	P 3
2 学区の現状と課題	P 4
3 まちづくりの基本姿勢	P 5
4 活動方針	P 5
5 まちづくり行動計画	P 6
6 まちづくり計画の実施サイクル	P 7
7 まちづくり推進体制の整備	P 8
付記一1 まちづくりに関する意識調査を用いた ワークショップ集約表	P 9
付記一2 従前のまちづくり推進委員会事業及び 町内会連合会事業一覧	P 10



## ごあいさつ

これまで「まちづくり」は、福山市による自治体主導で行ってまいりましたが、まちづくり推進委員会は、2006年（平成18年）から協働のまちづくり「キーワードモデル事業」「地域まちづくり推進事業」に取り組んで一定の成果を納めてまいりましたが再度、私たち住民視点から、自分たちの住んでいる地域の課題や資源にはどのような物があるのか？今後どのような点を重視した「まちづくり」をして行けば住みよい町になるのか？そんな思いを胸にこのたびまちづくり推進委員会は、福山市の「第二次福山市協働のまちづくり行動計画」を基本にして、「野々浜学区まちづくり計画」を策定いたしました。

この計画にはこれまでの活動の積み重ねや、住民の方にご参加いただきました「まちづくりワークショップ」での貴重なご意見やアイデアを取り入れています。私たちの町「野々浜」が、お子様からお年寄りまで全ての住民にとって、心のふれあいを大切に支え合いのできる安全ですみよい町になるよう、一層の努力をして参ります。委員を始めとする住民の皆様及び福山市のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2013年（平成25年）3月  
野々浜学区まちづくり推進委員会  
委員長 坂本 孝之



# 1 学区概況

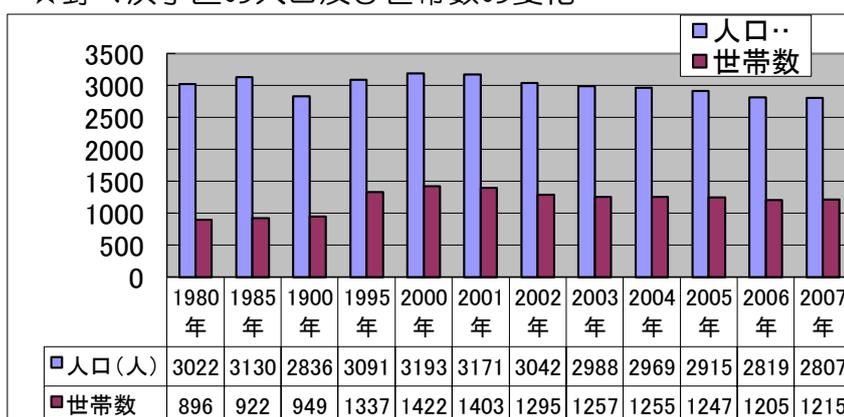
野々浜学区は、福山市の東端に位置し、岡山県笠岡市と境を接しております。当学区は、1979年（昭和54年）大津野学区より独立し、34年経過した。町内会会員世帯数885、組織率68,1%の小規模学区であります。学区の2012年（平成24年）3月末の人口は2,941人、世帯数1,300世帯で高齢化率22,1%に達しており、一人暮らしの高齢者も多い。また1961年（昭和36年）に日本鋼管（現JFEスチール株式会社）が、続いて1985年（昭和60年）にシャープ株式会社の進出で、関連する数多くの中小企業を配する歴史の浅い学区でもあります。

風土的には、温暖で、長年自然災害の危機を感じる事が無かったせいか、災害に危機感の薄い土地柄でもあります。同時に心配しても「詮無い事」と割り切りもみられる。

一方、地域文化は農業と漁業を生業とした伝統文化と、新たに発生したコミュニティ文化がせめぎ合う一面も見られる地域柄でもあります。そして地域には、特別な公的資源も無く、また学ぶ施設や娯楽施設なども乏しく、特徴も売りも無いいたって平凡な地域であります。

こうした中で地域まちづくり活動は、伝統文化・芸術を重んじながら年々工夫を加え多彩な事業を展開してきております。

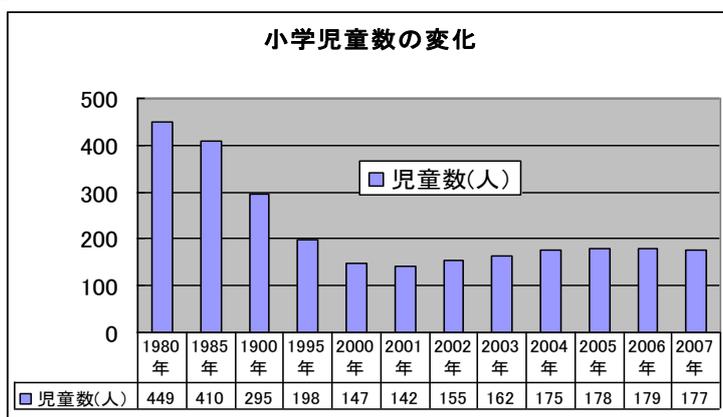
★野々浜学区の人口及び世帯数の変化



- ◆学区独立以来2000年（平成12年）3,193人をピークに減少傾向にあります。
- ◆2012年（平成24年）3月末現在  
人口2,941人  
65歳以上650人  
高齢化率22,1%

★野々浜小学校児童数の変化

- ◆小学校就学児童の数は1982年度（昭和57年度）のピーク値469名だったものが、2007年度（平成19年度）は177名と大幅に減少し現在に至っている。
- ◆2012年度（平成24年度）  
新入学数24名  
在籍数169名



## 2 学区の現状と課題

現在、学区を取り巻く環境は、少子高齢化を始め生活様式の多様化や、情報化社会の進展、さらには核家族化等大きく変化し、地域社会において人間関係が希薄化し必要以上の摩擦とコミュニケーション不足が目立っている。

特にコミュニティでは、地域活動や祭事等低迷している部分も見受けられる。今後地域社会にコミュニティを取り戻していく為にも相互扶助と助け合いの精神がますます重要となってきた。自分の意見ははっきりと述べ相手の意見も聞く事のできるコミュニティ社会の構築が必要である。

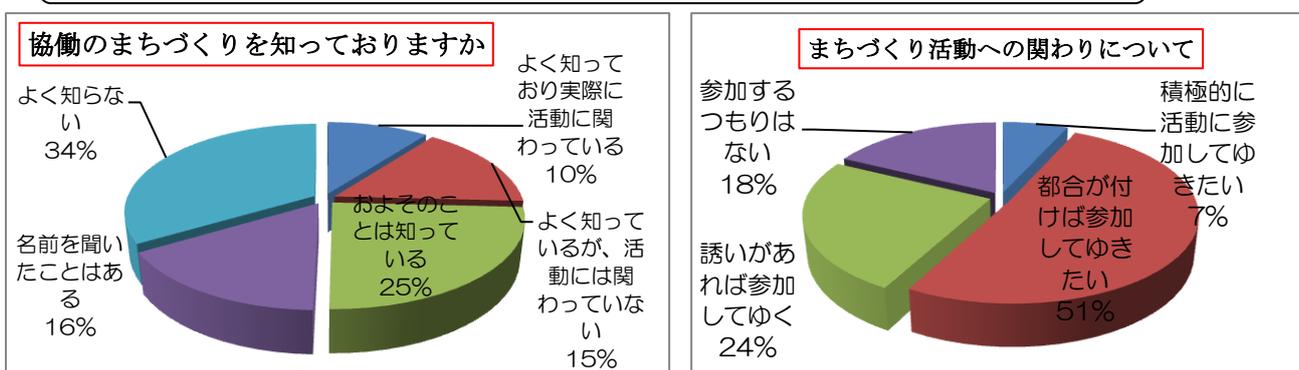
学区の中心部を流れる河川の環境整備、豪雨に対応できる雨水排水のポンプ場の増設工事は着実に進んでいるが公共によるサービスだけでは対応できないインフォーマルなサービスの対応も求められている。そのような地域の課題解決を図るためには、各種団体、ボランティア団体等が連携を図り地域住民の得意分野に応じた活動を積極的に進めると共に、活動をコーディネートできる人材の育成や資質の向上、新たなボランティアの育成を図る必要がある。

近年ますます発展する車社会は、便利で快適な反面、悲しい交通事故が絶えることなく発生し、いつ事故に巻き込まれるとも限らない。県道井原福山港線は一日約2万台の交通量があるにもかかわらず歩道は未整備で信号交差点は一カ所しかなく安全対策を求める声も多い。さらに地区内道路は狭く離合しづらく朝夕のラッシュ時には通過車両が流入し子どもたちの登下校とも重なるため、交通事故防止も問題になっている。

また、子どもたちを取り巻く環境も、いじめ、引きこもり等さまざま問題が発生し他人事ではなくなってきた。親たちが安心して子どもたちが安全に遊べる空間の確保や、悪質な犯罪に巻き込まれないための防犯パトロールの必要性を求める意見もある。さらには現下の高齢化社会の中で東日本大震災と言う未曾有の災害を目の当たりにし、防災意識の高まりとともに解りやすいハザードマップ等の整備や防災訓練の充実を求める意見もある。

以上のようにいろいろと諸課題はあるが、安心して住める地域を創るために地域社会の繋がり、結びつきの必要性を再確認し地域コミュニティの維持・復活を学区全域に定着させる必要がある。

まちづくりに関するアンケート調査 2012年9月 N数=155



### 3 まちづくりの基本姿勢

委員会では、住民の皆様からのご意見集約し、まちづくりの将来像を『ふれあい・支え合う・安全なまち』としました。これを基礎に歴史や伝統を大切に、住民のふれあいや支え合いのある安全なまちづくりを、自治会連合会や各種団体と連携しながら進めてまいります。

将来像

まちづくりのキャッチフレーズ

ふれあい 支え合う 安全なまち

### 4 活動方針

課題を解決するため、大きく次の三つの活動方針の下、まちづくりを進めます

◆人と人とのふれあいのあるまちづくり

伝統ある行事の発展や、ふれあいの場づくりを通じて、活力あるまちづくりを進めます

◆安らぎと支え合いのあるまちづくり

歴史や文化を大切に、文化行事等(年間行事)を通じて世代間交流を図り潤いのあるまちづくりを進めます

◆安心で安全なまちづくり

防災訓練等を通じて地域の結びつきを高め、お子さんからお年寄りまで、安心して安全に暮らせるまちづくりを進めます

## 5 まちづくり行動計画

### 推進方針と推進事業内容

NO	推進方針	事業内容	達成時期		
			短	中	長
1	人と人のふれあいのある まちづくり	◆ 遊歩道の整備	◎	●	
		◆ ふれあい夏祭り	●	●	●
		◆ ふれあい敬老会	●	●	●
		◆ ふれあい文化祭	●	●	●
		◆ ふれあいとんど祭り	●	●	●
		◆ ののはま花と緑の回廊づくり	◎	●	●
		◆ 集える公園、広場の造成		●	●
2	安らぎと支え合いのある まちづくり	◆ 学区環境衛生活動	●	●	●
		◆ 学区民体育祭の開催	●	●	●
		◆ 地域子育て文化教室	●	●	●
		◆ 子育て人権講演会	●	●	●
		◆ 地域福祉活動	●	●	●
		①サロン(いきいき・おもちゃ活動)の充実	●	●	●
		②小規模地域ボランティアバンクの設立		●	●
		③地域バス(お出かけ支援)事業の推進		●	●
◆ 住民交流サロン開設			●		
3	安心で安全な まちづくり	◆ 地域安全・安心活動	●	●	●
		①各種団体キャンペーン&パトロール			
		②年末年始警戒及び夜警			
		③防犯灯の維持管理			
		◆ 地域の連携で子どもを守る活動	●	●	●
		①110番の家活動			
		②子ども見守り活動(CSA)			
		◆ 自主防災・減災活動	●	●	●
		◆ ハザードマップの見直し整備	●	●	●
		◆ 自主防火・防災訓練の実施	●	●	●
◆ 災害時非常用品の拡充		●	●		
4	まちづくり推進体制	◆ 地域企業との連絡協議会の設定		●	●
		◆ 自治会組織の再編		●	●
		◆ ニーズにこたえる広報活動の展開	●	●	●
		◆ 次世代の地域の担い手育成	●	●	●

## 6 まちづくり計画の実施サイクル

第2次福山市協働のまちづくり行動計画が発表されて以来、私たちは大切なこの野々浜を、より暮らしやすくするとともに、次の世代に引き継ぐために、ともに力を合わせ助け合い、自らの手で築いていくとの思いを持って、学区各種団体と協議を重ね、実施計画策定のための意見を集約してまいりました。

その後、各町内会別に11の会場でワークショップ方式の検討会を開催し、色々なご意見を頂戴いたしました。そうした経過を踏まえ、実施のためのベクトルは共有できたものと判断し、以下の要領で取り組みを開始致します。

新事業と従前の事業と組み合わせる形で徐々に取り組みの輪を広げ、年度ごとに見直しを行いながら定着を図って行きたい。

### 目標達成時期 短期事業 2013年度（平成25年度）

1. 野々浜学区まちづくり計画について周知と意識の醸成を図る。
2. 各種団体は本計画書を基本に従前の計画を見直し、事業を実施する。
3. 今年度は、まちづくり行動計画に示す、◎の事業を実施する。
4. 計画全体を通し、事業効果、重要度を勘案し事業の具体要領を決めロードマップを策定する。

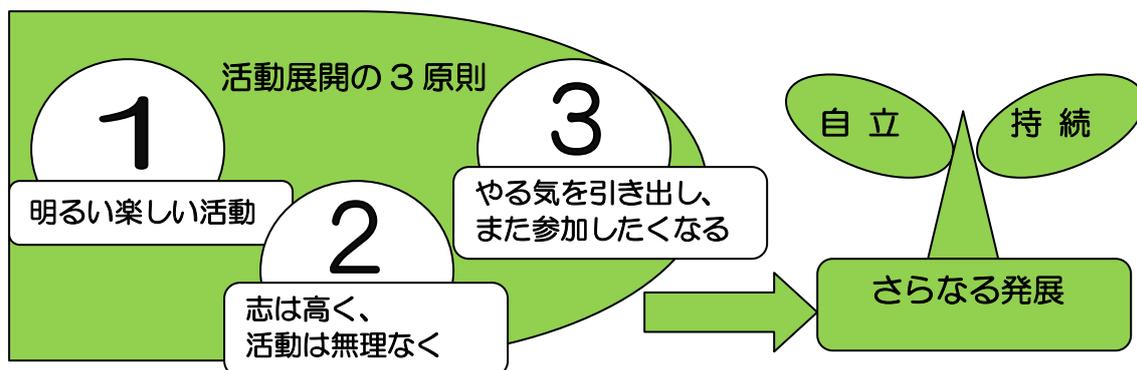
### 目標達成時期 中期事業

2014年度（平成26年度）～2015年度（平成27年度）

1. 本計画を軌道に乗せる最重要時期と位置付け、全力を挙げて新たな事業の取り組みを実施する。
2. 計画の問題点を（目指し目標と現実の差）精査し、プラン自体及びアクションプランを見直ししながら計画を強力に実行します。

### 目標達成時期 長期事業 2016年度（平成28年度）

1. 本計画の定着時期と位置付け、全力を挙げ新たな事業の取り組みを実施する。
2. 社会情勢や地域ニーズの変化を勘案し、計画の全体を見直しします。
3. これまでの取り組みを総括し、事業の見直しや改善を行い、さらに上のレベルの取り組みを目指します。



# 7 まちづくり推進体制の整備

## 住民自治組織を再構築し活力ある活動を展開する

自治会、まちづくりを含めた各種団体が、一体感を持ちながら力強く活動を展開する組織を再構築する。

1. まちづくり委員会を地域活動をコーディネートする「扇の要」と位置付ける
2. 委員会の構成は、既存各種団体を再構築し、部会制とする

### 組 織

(具体的組織は、検討委員会にて決定する)

部 会 名	主 管 団 体	主 な 構 成 団 体
総務・広報部会	自治会連合会	公民館、在住行政職員の会 ふれあい委員会
地域福祉部会	福祉を高める会	ボランティアの会、 シルバークラブ、民生児童委員
地域安全部会	自主防災協議会	防犯組合、防火支部、交通安全自治会、 学区パトロール隊、大津野消防団、 地域安全推進員、大門交番連絡協議会、 女性防災隊
環境保全部会	公衆衛生委員会	シルバークラブ 子ども会育成連絡協議会
健康・スポーツ部会	体 育 会	野々浜学区体育会 野々浜小学校、大門中学校
教育・文化部会	公民館運営 委員会	小中学校 PTA、青少年育成員協議会、 児童支援の会(CSA)、 子ども会育成連絡協議会
まちづくり 支援部会	まちづくり支援会	志のある人（支援者）
地域企業連絡協議会		

まちづくり委員会

- ◇ 委員会の構成は、役員十部会長とする。
- ◇ 構成団体は、既存の団体を基本に整理する。
- ◇ 活動費は、市よりの財政支援と自治会費（町内会費）でまかなうものとし、活動全体を委員会で審査し配分する。
- ◇ 運営マニュアル作成し、事務処理の効率化を図る。
- ◇ 地域企業との連絡協議会の設定し、新たなコミュニティを構築する。定期的に連絡協議会を開催し、課題を共有する。

まちづくりに関する意識調査を用いたワークショップ集約表

2012年(平成24年)12月10日

いきいきと生きられるまちづくりに大切なことは	会場名(町内会名)												学区集計
	沖上丸山	坂里中央	友の会	雇用促進	松井-1	浜・宮の前	高丸	沖南	沖東	ラポール	松井-2		
1 地域活動に積極的に参加する気持ちを持つ	2	1	2	2	2	1	3	3	2	2	2	2	2
2 公民館等で講座やプログラムを設ける。													
3 みんなが話し合える機会を定期的に設ける。		2	3			2	2	2		2	3		3
4 地域や学校において、ふれあう機会を作る。													
5 近隣と積極的に挨拶や会話をする。	1		1	1	1		1	1	1	1	1	1	1
6 家庭、地域と学校の連携を深める。	3	3				2							4
7 近所や公園などを自主的に清掃をする。													
8 高齢者、障害者支援を行政と協働で作る。									3				5
9 1~8以外													

※ワークショップで出された、課題と対策の方向

	課題・問題	対策の方向、提案
1	隣近所の住人の顔が見えない	(1) 井戸端会議的に日常的な挨拶の機会を作る。
		(2) 藩掃除等実施に必要性、共感のある事項には人は集まる。
		(3) 子どもからお年寄りが集える公園をつくる。
2	町内の問題解決は、町内だけで不可の事もある。 (マンション、社宅などでは会社対個人の契約)	(1) 学区全体でサポートする体制を構築する。
		(2) 管理部署との協議会をつくる。
3	行事やサークル活動への参加は最初の一步が勇気がいる。	(1) サークル活動の情報や、勧誘の内容を定期的に広報する。
		(2) 事業の計画や、実施報告等の広報を確実にを行う。
4	積極的になれないのは「情報不足」があるからだ。 企画した事を全員に周知する工夫と解り易い工夫を。	(1) 全行事の広報の有り方を検討し、充実させる。
		(2) 似通った物の氾濫で記憶に残らない。整理が必要。
5	行事は高齢者や子どもたちの興味がある物を考える。 足・腰の不自由な人でも参加できる環境整備を。	(1) 住民の声を十分聞く仕組みを作る。
		(2) 高齢者が参加できるよう足の確保や休憩場の配慮をする。
6	町内会共通のテーマ、課題を話し合う機会が無い。 転入者は、話合いのきっかけがつかめない。	(1) 町内会事業と、学区事業の調整の機会を作る。
		(2) 町内会の会合を定期的実施し、広く意見を吸い上げる。
7	町内の意見を聞く前に物事が決まっている。 決める側と参加側の意識に乖離がある。男が決め女が実施する。	(1) 行事計画全体調整の機会を設定する。
		(2) 女性のリーダーを積極的に登用する。
8	自治会加入促進が課題、加入の意義を明確に出そう。 未加入世帯を無くすまちづくりを。	(1) 具体的に目標設定し、100%加入の活動に取り組む。
		(2) アパート住民との交流の機会を作る。

★挨拶は地域づくりの出発点、実践に結びつけて行こうとする意識大。

壁の排除と背中を押す活動が必要

1. 推進組織の見直し再編を実施する。
  - ◆若者、女性の参加を促す組織
  - ◆重点事項の推進を考慮した柔軟組織
2. 各種会議の公開、議事録閲覧の仕組みをつくる。
  - ◆各情報誌・広報を見直し整理する。
3. 学区民の意見を反映した事業計画
  - ◆事業計画は、各町内会・各種団体総意によって決める仕組みの構築。
  - ◆年度事業は全学区民に広報する。

★情報を解り易く提供し、活動への関心を高める。

★地域活動に関心大の人は多い。  
★魅力的なメニューが少ない。

## 付記一2

# 従前実施のまちづくり推進委員会事業及び町内会連合会事業一覧



## 地域まちづくり推進事業

番号	事業項目	事業内容
1	学区環境衛生活動	一斉清掃、早朝清掃
2	地域子育て文化教室	社会教育活動 子ども銭太鼓
3	子育て人権講演会	著名人・講師の先生による講演
4	地域福祉活動	G/G大会、友愛訪問など 希望の広場ふれあい祭り支援など
5	地域安心・安全活動	防災訓練、安心・安全キャンペーン
6	納涼盆踊り大会	盆踊り、模擬店舗×5
7	ふれあい文化祭	ステージ発表・作品展示 ふれあいマーケット
8	シルバークラブ運動会	資金援助
9	とんど祭り&ウオーク	伝統文化の継承 とんど2基組立 3ヶ所の健康ウオーク、マラソン大会
10	東部文化フェスタ 2010	資金援助
11	福祉施設見学研修	施設
12	コミュニティ育成事業	各町内会活動の支援
13	推進委員会運営費	広報紙の発行など

## キーワードモデル事業

## 町内会連合会事業

番号	事業項目	事業内容
1	各種団体事業評価確認、助成	16団体へ総額103万の助成及び 会費として納入(町連会費の71%)
2	地域課題解決に向け行政と協働	市政の要望事項集約整理、提示 市政懇談会参加 市及び関連機関の連絡要請事項の配布
3	学区敬老会の実施	市と合同で実施。実務は実行委員会
4	人権啓発活動展開	町内会別学習会の計画実施
5	近隣企業との連携強化	シャープ工場排水の検査監視 JFE降下煤塵の総量監視報告 企業との意見交換会
6	防災体制の整備	防災カード作成、保全 防災訓練実施 要援護者支援(2012年度より)
7	地域環境整備	ばら花壇の造成、保全 学区内美化活動の推進
8	地域安心安全運動展開	町内会別パトロールの実施 各関係団体・機関との連携強化
9	各種団体活動支援援助	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一斉清掃</li> <li>・納涼盆踊り大会</li> <li>・体育祭</li> <li>・文化祭</li> <li>・年末夜警</li> <li>・総合防災訓練</li> <li>・とんど祭り など</li> </ul>